

## 第5回 桑名市就学前施設再編検討委員会会議録

- 1 日 時 平成23年2月24日（木） 午後3時から
  - 2 場 所 桑名市役所 5階中会議室
  - 3 出席委員 学識経験者2名、自治会連合会1名、民生委員児童委員1名  
私立幼稚園2名、私立保育園3名、公立幼稚園2名  
公立保育所1名、公立小学校1名、保健福祉部長、教育部長
  - 4 欠席者 自治会連合会1名
  - 5 出席職員 教育総務課長、指導課長  
社会福祉事務所長、子ども家庭課長、同主幹  
学校・園再編推進室長、同主幹、同研究主事、同主事
  - 6 議 事  
(1) 中間まとめについて
  - 7 傍聴人 0名
- 
- 

(教育総務課長)

皆様、こんにちは。ただいまから、「第5回 桑名市就学前施設再編検討委員会」を開催させていただきます。まず、資料の確認をさせていただきます。

－資料の確認－

それでは、委員長さんよろしくお願いいたします。

(委員長)

ただいまから、第5回就学前施設再編検討委員会を開催したいと思います。まず、第4回の議事録について確認をしていきたいと思えます。この議事録について何かございますでしょうか。

よろしければ、署名をさせていただきます。

次に、私の方から、第4回委員会の振り返りをしていきたいと思えます。前回は、主に、幼保一元化について検討がなされました。

—第4回 就学前施設再検討委員会の主な意見に沿って振り返り—

今日の主題は「中間まとめ（案）」ですが、その前に、前回公立幼稚園に係る経費についての他市との比較を、という提案がありましたが、その点の説明をお願いします。

(再編推進室長)

他市との経費の比較ですが、各市により、人口に対する公立幼稚園の数、形態、職員の配置等様々で、私立幼稚園・保育園、公立幼稚園・保育所の構成割合が違っている。そのことから経費も様々に違って来るかと思われる。

また、経費の大半を占める人件費は、市によって職員の年齢構成も様々で、その年度の退職人数により金額が大きく変わることなどを考慮すると、資料として、単純に比較の出来るものとはならないと判断し、他市比較は控えさせていただいた。

(委員長)

明らかに比較が出来るような資料は得られないという判断で、今回は提示されないということでしたが、いかがでしょうか。

(委員)

怠慢だと思う。比較の仕方はいろいろある。分からないでは先に進めない。継続的な課題として何らかのものを出すべき。

(委員長)

公立幼稚園は、人口規模に応じて交付税算定されているので、交付税額の金額は把握出来る。しかしこれは、市のどの事業に使ってもよいお金なので、実態は公立幼稚園の経費としてつかわれていないということが多々ある。

悩ましいところであるが、要望もあるので、この件についてはもう少し検討をお願いしたい。

(委員)

他市町村が出しているのと同じ形で桑名市の場合も並べてみることで、本当に桑名市がどうかということが知りたいと思う。

(委員)

この件は、算定の基準によって数字はかなり違って来るので、難しいのではないか。これを出したとしても、議論の内容が変わるほどの大きな差異はない。それよ

り、私立幼稚園と公立幼稚園で税金の投入額に差があるということに重きを置くべきだ。桑名市の保育料（収入）は、三重県の中で一番安く、この点でも私立との税負担格差を大きくしている。

（委員長）

他市との経費の比較は一度検討をお願いします。

では、今日は、「中間まとめ（案）」の議論をしていきたいと思います。

この「中間まとめ」の目的は、今までの議論をまとめて、来年度の議論の時にはここからスタートできるようなものにしておくというもので、あくまでも議論のまとめである。諮問を受けた事項に対する、答申の中間報告という位置づけではない。委員の皆さんには、これを踏まえていただいたうえで、事務局説明をお願いします。

（再編推進室主幹）

委員長がおっしゃったとおり、今年度4回の検討委員会のまとめである。

○ 合意に至った内容と、意見をいただくにとどまっている内容、検討していただく中で出てきた課題などを整理しまとめた。

○ 挿入として、表紙の「中間まとめ」の上に「桑名市における就学前教育および就学前施設の在り方について」と加えてください。

○ 未説明の資料、中間まとめ資料2-1 資料5-1 5-2について説明

（委員長）

内容的には、各施設の園児数の推移から見ても、公立幼稚園は4、5歳児とも減少傾向。また、1園のクラス人数が減ってきていて、子どもたちにより良い育ちを保障するには、公立幼稚園を統合し集団性を確保するということが話し合われたということであったかと思う。

以上資料説明の内容と、公立幼稚園の統合再編がここではメインテーマであるという2点については、いかがでしょうか。

では、「中間まとめ（案）」についての検討に入っていこうと思います。

1. 桑名市就学前施設再編検討委員会 （1）諮問文と（2）諮問説明、2. 平成19年の答申の確認 3. 桑名市の現状 についていかがでしょうか。

（委員）

諮問文の中に「子どもたちの集団性の確保を図ることが喫緊の課題となっている」とあるが、これは公立の幼稚園・保育所のことであって、私立は開設当時から努力をしてきたので今問題はない。全ての施設を対象に、喫緊の課題となっているというのはおかしいと感じる。

また、3の桑名市の現状の最後に、急に、「公立幼稚園の現状」があり、諮問事項に「公立幼稚園における学級の規模・・・」公立幼稚園のことだけが急に出てくることに違和感を感じる。根本的に、桑名市就学前施設再編の目的とは、桑名市の子どものための再編ではなく、公立幼稚園をどのように生き残していくかを検討する会であるような印象がある。

教育委員会が持っている方向での共通認識ということであれば、賛成は出来ない。

(委員長)

桑名の場合は、私立の幼稚園・保育園も大きな役割を果たしてきていて、その一方では、公立の幼稚園・保育所も大きな役割を果たしてきていることは確かである。その中で、19年答申にも、課題として大きいのは公立幼稚園であるという書き方がしてあり、それを受けての今回の諮問文なので、市の諮問からいうと、これが喫緊の課題といわざるを得ないのは当然だと思う。

(委員)

人数の多い私立が主になっている現状からすると、私立をどのように育てていくのかというところに発想を及ぼさるべきである。

(委員長)

私立を育てるとはどういうことか。

(委員)

公私の格差を埋められるような援助のことです。

(委員長)

だからこそ、来年度からは、いよいよ統合や再編を考えていくという具体的な議論に進んでいくものだと思っている。

(委員)

この会の名前が、「桑名市就学前施設再編検討委員会」ではなく、「公立幼稚園再編検討委員会」であればもう少し分かりやすい。

(副委員長)

11月視察で、公・私では保育内容も施設も歴然と違いがあった。これを保護者が選択できるということがすばらしいことである。ただし、現実には私立の方が選ばれているので公立はいらないかというところは違う。

公立は幼小中の連携をもっと充実させて、公立ならではの個性を出すべきである。「中間まとめ」については、これを土台に今後検討していくという点では、私はこれでいいと思う。

(委員長)

就学前施設のあり方を考えるには、現状を見たときに、公立幼稚園の統合がメインの議論にならざるを得ない。統合の具体的な議論の中で、いくつか残った園（適正な規模の公立幼稚園）を保護者が選択し、それでもなお減ってきたということであれば、淘汰されざるを得ないのではないかと思う。多くの場合、中学校までの義務教育期間の保障は、基礎自治体である市の責任で考えていかなければならない。私立の幼稚園・保育園から公立の小学校へも問題ないという連携を考えていかなければならないということでもある。

その前の段階で、就学前施設の再編ということで、今回の諮問は、大きな課題である、公立幼稚園における望ましい集団の確保とならざるを得ないであろうと思っている。

(委員)

桑名市では幼稚園が小学校に併設されている。保育園に就学前までいて卒園していくのが望ましいのに、5歳になると当たり前のように公立幼稚園に行ってしまう。このことをとても残念に思いながら私立は我慢してきた。このような状況が長く続いてきて、今回、公立幼稚園の園児が減ってきたからといって、喫緊の課題と出されても、どうして今さらこれが課題となって出てくるのかは、われわれ経営者には信じられない。これから私立を延ばして行って公立から私立に移行していくのであれば理解できる。

(教育部長)

桑名市の就学前教育について、私立さんに貢献していただいていることは分かっている。ただ、公立幼稚園の人数が減ってきた最大の原因は、2時降園という時間的なことに問題があると思っている。では、預かり保育や幼保一体の園や、幼小中の連携も全てをやって、とにかく公立も企業努力をしていくということになるとこれまたどうかと思う。今の公立幼稚園の状況がベストでないことは事実であると思っているので、私立さんやいろんな立場の方と議論をさせていただきながら、公立

は、どんな形がいいのかを見出していきたい。

公立幼稚園の現状を切り口にして、これからの桑名市の就学前のあり方を考えていく1つのルール作りをしていくことが大事かと思っている。今の公立幼稚園がうまく経営していけるという中で、生み出されるものがあれば、それをどうするかという辺りは考えていきたいとも思っているし、公立に園児を集めようという会でもない。当然、4、5歳児の定員ということも出てくるかと思う。家庭の事情や子どもに合った園を選べるということが、市民にとって大切でないかと思っていて、これから、共存していくためのバランスを考えていく会にならないかという思いである。

(委員長)

もちろん公立幼稚園だけのことではないから、就学前施設の再編であるが、1クラスの適正規模を大きく下回っている公立幼稚園を、まず考えるのが大きな課題だというのが最終答申の中にも書いてある。これを具体的に今回検討していきましようということになっていることが第1番である。その時に、公立を民営化するという議論は、19年の答申の中にも必ずしも書いてあるわけではないし、今回の諮問内容の中には、民営化、全面民営化という内容は検討対象になってない。

ただ、皆さんからいただいた意見と今日の議論から感じるのは、このような議論があったということは、「中間まとめ」の中で記しておく必要があるということである。今回の諮問の範囲からいうと、まず、考えなければいけないのは、公立幼稚園の適正規模であり、これを決めたら、施設の配置に踏み込まざるを得ない。議論は繰り返しているが、実際の統廃合はまだやってない。それを今回やろうというのが、この会議だと認識をしている。

(教育部長)

選択肢の1つとして公立幼稚園を考えていただきたい。幼稚園行政として公立が全面撤退するという事は考えていないので、そこだけのご理解いただきたいと思っている。19年答申からいくと、9つの中学校区を基本に再編するという事もあるんで、そうすると、2年保育の複数学級というのは数からいっても難しい。その点は、今後現実を見据えながら進めていくことになる。先回は、どういう形を目指すのかという点で、理想論として議論したと認識している。19年答申は踏み込んで出来なかったんで、是非、今回は、財政的なもの、教育という視点、現実の子どもたちの人数の部分をしっかり議論していく必要があると思う。

(委員長)

1度話を戻したいと思う。今回の「中間まとめ」の1. 桑名市就学前施設再編検

討委員会から3. 桑名市の現状についてはこのような形でよろしいでしょうか。

(委員)

公立幼稚園の4歳児はやや減少、5歳児は減少傾向と書いてある。その他の施設は減っているところがない。理由は、時間という発言があったが、私は、時間だけではないと思う。私の保育園では、体を鍛えるということを徹底してやっていて、3歳以上は、午前、午後1時間、何でもいいから運動をさせよとやってやっている。公立幼稚園を見に行くと、子どもは外に出て遊んでいない。このような基本的なことが出来てない。私立幼稚園、保育園に勝てるだけの力をつけて、お互いに切磋琢磨していくことがいいと思う。その上で、私立幼稚園や保育園の園児が減ってもそれは仕方がない。

公立幼稚園は、統合をしなければ仕方がないのではないかと私は思う。

(副委員長)

私立でも公立でもカリキュラムに沿って保育をしている。共通のカリキュラムは骨組み、それに、どう肉付けをするかが園の個性であり、選ぶのは保護者。そういう意味で、公立幼稚園の保育と私立の保育は違っていてもよい。

(委員)

公立幼稚園の園児が減ってきているということははっきりしている。その原因は、私が1軒1軒まわらせてもらったところ「働いているので、2時ではね。」というお声が一番多かった。

例えば、幼稚園の数を4分の1に減らして、4、5歳でやったときに、今ままでおりの、園児が集まるかというそれは自信がない。そこには、お母さん方の要望である預かり保育を、少しずつでも実施し、公立の特色をアピールしながらやっていく。私学さんおっしゃったように、公立幼稚園も、ある程度経営努力をしていかないと今後は難しいと思う。

公立幼稚園の再編の検討の時も、近くに私学さんやどのような園があるのかというあたりも話し合いをしていただきたいし、どうすると、もっと公立の魅力が出せるかということも教えていただきたいと思う。

堺市立「百舌鳥（もず）こども園」に視察に行った。民間と公立幼稚園とが一緒になったこども園であった。多少やりにくいこともあるが、公立と私立は敵対するものではなく、協力できるところは協力しながらというお話を聞いた。桑名の子どものことを考えていくという視点に立っていかないと、保護者が離れていくのではないかという気がする。

(委員)

私は、園児数が減っている原因の1つは、5歳1年保育ということも上げられると思う。昔は、大半の保護者がおうちにみえたが、女性が仕事を持つようになり、国も女性からの収入を期待する社会に変化をしてきた。子どもが大きくなればお金もいる。家庭の足しにと母親が働き始めた時に、5歳1年保育では選択できないというのが実際である。

私たちは、その中でも自信を持って保育に当たっているが、保護者からは、公立でも2年、3年保育をとという希望があるのも確かである。また、共存ということを見ると、保育所・保育園、幼稚園の先生たちが集まって、桑名の子をどうするかを話し合うことが、大切な共存になるのではないかと思う。公立の場合、中学校区で幼小中の教員が集まり話し合う場があり、1年生に行った時に就学前の保育に何が欠けていたかと自分に振り返る園、教員でありたいと思う。

また、兄弟でも入園先が、公立と私立に分かれるという家庭もある。だからこそ、共に桑名の子をどうするかを考えていただきたいし、私もこの会で学びたいことをもって参加させてもらっている。

理想だけを言っていて、現実を見ていないわけではない。

(副委員長)

20代、30代の若いお母さん方の子どもに対する期待はどうか。その中で公立にも、選んでくれるだけの何か明確な柱があれば勝負になるのではないか。委員会は何年か前からやっているが、そのところがちょっと弱かったかと思う。

(委員)

保育園は、公立も私立も保育料が同じ。幼稚園は額が違う。公立の幼稚園が、例えば4時までにして、保育料に預かり料金が上乗せされることになっても、保育園の月額2万、3万にはならない。そうすると、私立の保育園が影響を心配するのは当然だと思う。公立の状況も分かるが、それによって私立の運営が圧迫されてくると困るということも考えるので、経営者としては簡単にそうですねというわけにはいかない。

(委員)

いろいろ再編の話が出ているが、これは、旧桑名の話で、長島、多度エリアを含んで話をするとずれてくるのではないかと思う。多度エリアは、公立幼稚園が1園あり、幼稚園と保育所が併設している。非公開ながらも、幼保一元化を進めようということが流れたこともあった。立地条件が良いからということで、単純に幼保一元化や統廃合の話を持ってくるのは非常に困る。



長島エリアは、私立保育園2園、公立保育所1園、公立幼稚園4園。このような状況で、幼保一元化をやられたら、経営状況はきついものになる。私立にとっては死活問題である。多度エリアでいうならば、公立幼稚園は40人近くおり成り立っている、保育所の子は5人ほど、私立保育園はそれぞれ40人、20人。多度のエリアでは、親がきちんと選択して選んでいる。長島、多度、旧桑名は状況が全部違うのに、この会議で1本化されると非常に困る。

(委員長)

1本化というのはどういうことか。

(委員)

例えば、幼保一元化のことです。

(委員長)

わかりました。今、具体的に幼保一元化の話や、クラスの人数設定の話もでており、これが、全市一律なのか、多度、長島の話はどう考えるのか等、いろんなご意見がでています。

ここで、委員長としての私からの提案であるが、この「中間まとめ」8ページ以降では、あくまでも諮問された事項を中心ということなので、諮問内容の

○幼保一元化について ○公立幼稚園の規模 ○私立と公立の共存 の3点でまとめてある。諮問事項には「その他の事項について」ということで、「4項目の協議の中で見出された課題等について提言を」とあるので、「その他の事項について」という項目を起こしてはどうか。協議の中で、いつもウエートを占めている、公立幼稚園と私立幼稚園にかかる経費、公費という視点、私立における経営圧迫の話、全面民営化の話といった議論もありましたということをごここに、明確にしていくのがよいかと思っている。この点についていかがでしょうか。

(委員)

経費の面、地域の特性、民営化といったことを「その他の項目」に含めていくのいいと思う。「その他」だから軽いというわけではないと思うので。

(委員長)

「その他」の項目を設けるという点はよろしいでしょうか。では、このような形で議論を精査していただきます。

次に、9ページの幼保一元化のところですが、ご発言をお願いします。

(委員)

その前に1点、“民間”と私たちも言葉では使うのですが、私たちは、“公益法人”であって“民間”ではない。

幼保一元化については、幼保一元化を急いでいる桑名市という印象があり、それを危惧している。もし、このままいくと、桑名市は私立に対し大きな力をもつことになる。その時に、私たちとしてどのように力を持てるか。あるいは、桑名市の中でどのように力を発揮できるかということになっていくかと思うので、幼保一元化については、十分に検討しながらやっていかなければならない。この前提としては、公立ありきというのが見え隠れし、ここが怖いところである。

一番最後の「委員会質問」は、公平性のあるものではなく、個人的につながりのある人から聞いたものだが、東京都板橋区、私立幼稚園35園、私立幼稚園就園児数約6千人、区立幼稚園は廃止し、私立幼稚園に補助金が回るようになった。幼保一元化はない。福岡市公立幼稚園7園、私立幼稚園124園、私立幼稚園1園あたり200人から300人規模の園で、1千万円程度の補助が市から出ている。愛知県みよし市、公立幼稚園、社会福祉法人の保育所はない。私立幼稚園が6園と公立保育園が11園という情報をもらった。

先ほどのご意見にあったように、保・幼・小・中の連携は大変重要で、私たちも研修や会議には参加したい。しかし、その間、誰がバスに乗るのかというマネジメントの部分でお金がないから出来てない。気持ちは強くあっても出来ないということをつけ加えたい。

(委員長)

幼保一元化については、基本的な考え方ということで、平成19年の最終答申をそのままひいている。行き先をもう少し見定めないといけないかもしれない。議論の中でも、そのような意見はあったので、まとめるとそういうことになるのかと思う。ただ、そこで、今後の公立幼稚園の再編を考えるにあたっては、地域によっては幼保一元化施設を考えていこうという方向にもあるという表現をしているがこの点についてはいかがでしょうか。

(副委員長)

地域性があるので、全部一緒ではなく、われわれが今の時点で考えられる、地域に合った一番いい形におさまればいいのかと思う。

(委員長)

例えば、幼保一元化については、選択肢の1つとして今の段階でつぶしておく必要はないと思うがどうか。

(保健福祉部長)

幼保一元化については、19年答申から、選択肢の1つということで東部の拠点施設に幼保園をとという構想を進めてきたが、様々な状況から白紙になった。ただ、進める中では、まずは、公立幼稚園の再編が先であるという意見が出て今回の会が立ち上がった。このような経緯はあるが、考え方としては、幼保一元化を継続して進めていくということによいと思う。

ただ、幼保一元化については、国の待機児童解消のためとも受け止めていて、それを、地方にあてはめても、実情にはそぐわないというところもあり、国の動向も含めて考えていく必要がある。

東部は、子育て支援センターを先に建てたので、それと併せて今後検討を重ねていかなければならないと思っている。今年一年間のご意見を聞いていると、来年度も平行線のままいきそうな感じを受ける。公立幼稚園側、私立側ももう少し柔軟な態度で、ある程度のたたき台を出していくという形で進めていくとよいと思う。

(委員)

先ほど、幼保一元化には少し早いのではないかという意見があったが、実は、23年前に愛知県労働者協議会のセミナーがあった時に、少子化の中で、幼保一元化についてすでに言われていた。むしろ私自身は、遅きに失していると考えている。基本は、子どもをどのように育むのかということで、今後も、もっと中身をつめて進めていただきたいと考える。

(教育部長)

19年当時も、その前の検討委員会の時にも、国の動向を見ていくという話があった。ただ、国の動向を見ていると、そのうちに、大事な部分が・・・ということもある。19年度の時点でも、早く進めるようお声もいただいた。最終的には、桑名市としてどうしていくのかが問われてくると思う。ある程度、ご意見が出たので案を出していかないといけないと思う。具体的な案の中で、幼保一元化、経営の面からのご意見もあると思うので、幼保一元化施設を考えていく方向にあるということは1つの考え方として残していくとよいと思う。

(委員)

先ほど、保健福祉部長の方から柔軟なという発言があった。大変憤りを感じている。私学の経営のきびしさを残念ながら全く理解していただけてない。私立幼稚園は、人数は減ってないが、実際の経営はぎりぎりのところでやっている。今、中学校区で複数学級で2年保育、これをまともにやられたら、私学は半分なくなる。公立は、どれだけ人数が減っても、廃園という判断をしない限りつぶれることはない。

私学の場合は、最低の人数を確保していかないと、生き残っていけない。このような厳しい経営環境であることを十分理解していただいた上で議論していただきたい。「公立が減ってきたから、充実させてもう少し人数増やしたい。私学さんかまいませんか」というような桑名市の思いが伝わってくる。もう少し柔軟な態度というのは、大変失礼な発言だと思う。

(保健福祉部長)

柔軟なというのは、合意形成や意見調整の議論をもう少し深めいくとよいという意味で、言葉足らずで申し訳ありませんでした。

(委員長)

当然、私学は経営を考えなくてはならない。公立は経営については欠如しているかといえばそのとおりで、だからこそ、統合再編していくというのがここでの課題であるということをご認識いただきたい。

深めた議論を来年度からやっていくためには、お互いの認識をすり合わせる必要がある。その認識をすり合わせるペーパーとして、「中間まとめ」を作ろうということである。

幼保一元化については、地域によって幼保一元化施設を考えていく方向もある、という選択肢は残しておくということによろしいでしょうか。

(委員)

幼保一元化は、待機児童があるところ、もしくは過疎地というのが根底にあるものだと思う。今の桑名市に待機児童がどれだけいるのか、多度エリアでは、待機児童はゼロに近いと思っている。その中で、まずは、統廃合や規模の話をするべきであって、現段階として、幼保一元化を進めるというのは、個人的にいうと大反対である。国の動向が幼保一元化に進んでいるといったところで、桑名市としてはしないという結論であっていいと思う。本当に幼保一元化が必要かどうかということ議論するべきであり、選択肢に残すのではないと思う。

(委員長)

そもそも、幼保一元化ということをも今の桑名で考えるべきなのかどうかについても議論しなければならないということでした。次に、10ページ公立幼稚園の1学級の人数、園の規模、複数年保育についてはいかがでしょうか。

(委員)

前回も言いましたが、大体、1クラス20人くらいで、4歳5歳1クラスずつが、

今現在実績としてある数字なので、それをベースに考えていただきたい。

(委員長)

そのことは、すでに明記してありますね。

(委員)

市として、桑名市の子どもにどういう対応をしていくかが、まず決まらなると私立幼稚園としては何ともいえない。平等に税金をつぎ込んでいただくのであれば、公立の皆さんもどんどんやっていただければいいと思う。

これがベストだからこのようにしていきましようという議論になっても不平等な環境の中では、私立幼稚園の経営者の立場としては賛成は出来ない。まず、桑名市として私立幼稚園を公立幼稚園と平等に扱ってもらえるのかどうかのしっかりした基本姿勢を見せていただけたらの議論になるのではないか。幼保一元化も諮問事項にあるので、議論せざるを得ないとは思いますが、もともとここにのってくこと自体が私は間違いであったのではないかと思っている。

(委員長)

私学の経営の話、平等に扱うという姿勢を桑名市がどう見せるかというような意見をまとめて「その他事項」に入れていくということです。

(委員長)

本日の議論の状況からいくと、「中間まとめ」という内容でまとめるような文案を出すまでには至っていないと思うので、これまでの議論のポイントのようなものとして、こういう形の議論が行われたということが理解できるような文章形式にする作業をしてもらえますでしょうか。今日の意見とペーパーでいただいた意見もポイントについては盛り込んでいく。

3月を超えるとメンバーが変わることも考えられるので、3月中に各委員さんに見ていただきながら、またそれは皆さんのところにお送りしてという形でまとめてもらいたいと思う。

経費の問題、民営化の問題等については、諮問の「その他事項」でまとめていく。こういう論点ですという形であるので、「中間まとめ」ではなく「論点整理」と変更していただきたいと思う。

(委員)

先ほど、平等に税金をつぎ込んでもらったら・・・という話があったが、そうするという返事がない限り、この議論をする気はないということなのか。

(委員)

そういう意味ではない。私立幼稚園は常に競争していて、仮に生き残れなかったら最終的には廃園もやむを得ないという覚悟でやっている。ただ、私立幼稚園と公立幼稚園はかなりの格差があり、不公平な中で今競争をしている。その状況が解消されなければ、公立は私立の経営を十分配慮した形でやっていただくことが前提になるかと思うということである。

今、中学校区に複数年、複数学級という話があり、統廃合の中で、施設も新しくなったりすると、私立の経営に大きく影響する。場合によっては半分くらいの園がなくなってしまう。不公平な状況が解消されなければ、いくら複数学級が望ましいと思っても、私立幼稚園としては賛成できない。

(委員長)

なかなか賛成できないということではあるけれども、桑名の子どもであれば、公立、私立を問わず、一定のクラス規模が必要であるし、異年齢でいるということも必要である。これについてはいいですね。

(委員)

現実問題として、私立の経営が成り立たなくなれば、自分たちが理想とする教育が出来なくなる。私たちは、それを守っていかなければならない。

いくら公立にとっていい話だと思っても、私立の経営に大きく影響することについては、私立の教育を守るために賛成できない。

(委員長)

だから、これからこのことについての議論をするということです。

(教育部長)

これからは、具体的なものを出し、修正も加えながらということにしていくとよいかと思う。

(委員)

出来る話と出来ない話が当然あるが、話がしたくないというのであれば、われわれはここにはいない。

(委員長)

今回は、論点を整理するという方向で修正し、もう一度皆さんに見ていただくということで、とりあえず、年度内の検討は終わらせていただきたいと思います。

では、事務局より来年度の会議についてお願いします。

(再編推進室長)

来年度の会議は、第1回目を5月の連休明けくらいにお願いしたいと思っている。  
1回目を含めて8回程度を予定している。

(委員長)

では、これで、第5回検討委員会を終了いたします。

17時10分終了

以上会議の顛末を録し、ここに署名する。

委員長